

課 題	21 有名松林の維持・再生手法の開発 「よみがえれ松林」				開発期間	平成8年度～平成17年度		
開発箇所	上下田国有林608ら 0.56 ha	担当部署 森林技術センター	共 同 研究機関	林木育種センタ- 関西育種場	技術開発 目 標	2 (4)	特定区域 内 外	○
開発目的 (数値目標)	マツクイムシの被害の恒久的対策である抵抗性マツ種苗の導入による松林の維持・再生手法の確立を図る。							
実施経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成8年度 近年、マツクイムシの被害が多いことから、抵抗性マツの導入による松林の維持・再生手法の確立を図るため、試験地設定する。位置図（別紙）地況等＝傾斜：緩、地質：斑岩、土壌：BD（d）、方位：東、標高：465～500m ・育種センター関西育種場において抵抗性マツを育苗する。 ・平成9年度 育苗した抵抗性マツ苗木 20クローン 1,730本植栽（4月）した。 ・8月枯損調査 ・平成10年度 下刈、生長量調査。 ・平成11年度 下刈、生長量調査。 ・平成12年度 経過観察。 ・平成13年度 生長量調査。 ・平成14年度～平成15年度 経過観察。 ・平成16年度 現地検討会を実施し、今後の施業、調査等について検討し、17年度生長量調査を決定。 ・平成17年度 林内整備、生長量調査。 <p>* 枯損調査結果及び生長量調査結果（別紙添付資料）</p>							
開発成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成9年4月植栽後、1～2年間は、上昇生長量が少ない時期があったが、平成12年度頃より徐々に生長が良くなり、現在は、マツクイムシによる被害もなく順調に生育している。 ・今後、毎年の被害状況と定期的（5年毎）生長量調査を行うことが必要であるが、本課題での一定の結果が得られたため完了する。 <p>また、松林の維持・再生を図るうえで経過観察が必要であり、技術センターの自主課題として継続調査していくこととする。</p>							